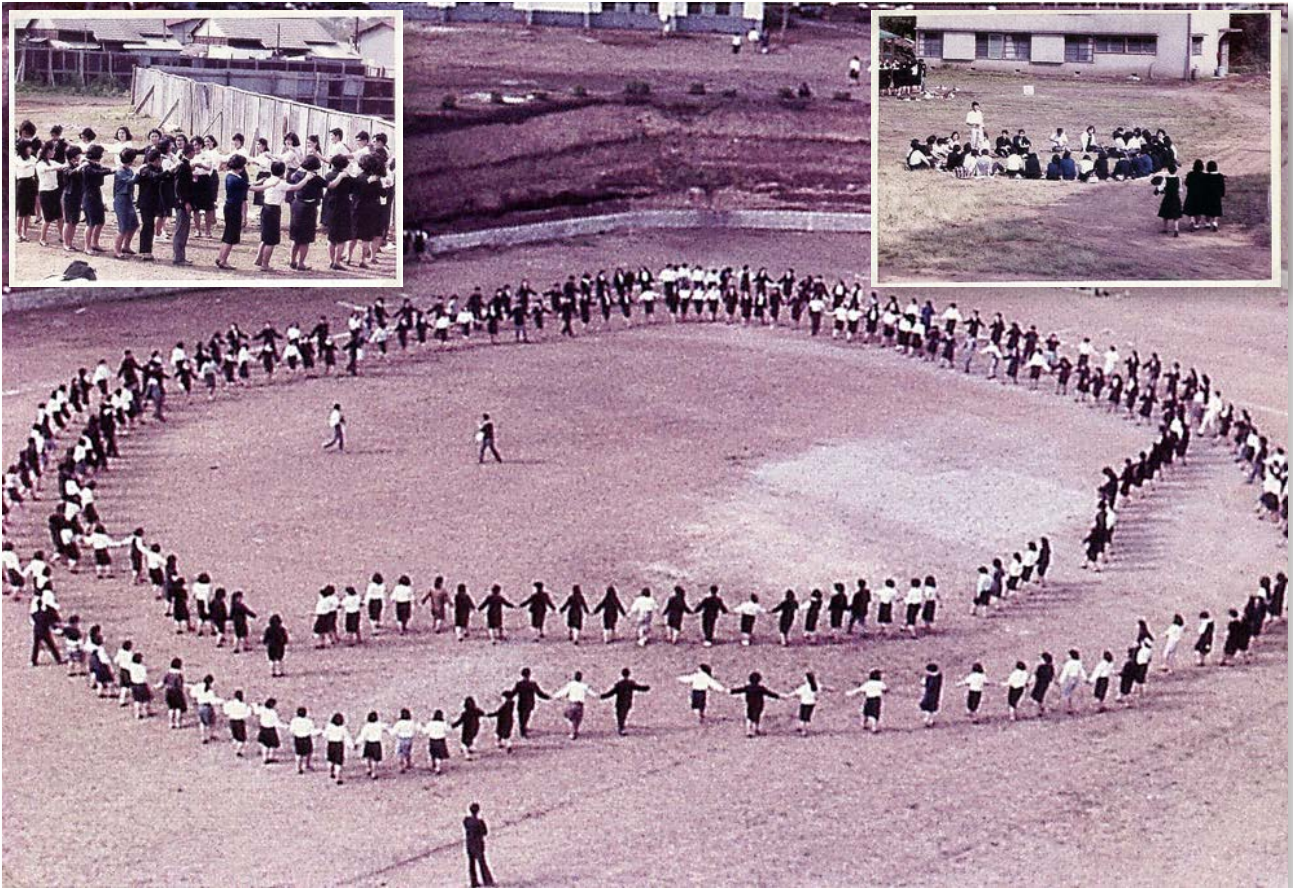


CONTENTS

- 淑徳大学と淑徳短期大学との交流 1
- 学祖・長谷川良信と社会事業の先覚者たち Ⅷ 2
- 平成30年度淑徳大学アーカイブズ特別展
「夢の力（ちから）―歴史・仏教から福祉へ―」開催 5
- 「淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会」のご案内 6
- 淑徳大学アーカイブズ日誌（2018年6月～10月） 6



— 淑徳大学と淑徳短期大学との交流 —

1965年（昭和40）4月に開学した淑徳大学の初年度の学生数は、1年生のみのわずか61名であった。このため、学祖・長谷川良信は淑徳短期大学の学生との交流を企画、9月15日に淑徳短期大学の学生を淑徳大学に迎えて、盛大に交流会が開催された。

グラウンド（現中庭）では学生たちが一つの輪になってフォーク・ダンスに興じたり、いくつかのグループに分かれて合唱をするなど、和やかなひと時を過ごした。
（淑徳大学アーカイブズ所蔵）

学祖・長谷川良信と社会事業の先覚者たち VIII

— 矢吹慶輝 —

淑徳大学アーカイブズ 所長

長谷川 匡俊

長谷川の社会事業における思想・理論と実践の形成にとって欠くことのできない恩師のうち、前号では「恩師中の恩師」というべき渡辺海旭との深厚な関係について紹介した。

そこで本号では、もう一人の恩師・矢吹慶輝（1879～1939）を取り上げてみたい。長谷川にとって矢吹は、当時最先端の欧米社会事業の道案内者であり、宗教大学における社会事業教育（人材養成）に途を拓いてくれた斯界の重要人物である。この二人の出会いについて触れるに先立ち、まず矢吹のたどった生涯の軌跡を、社会事業を中心に年譜的に紹介しておこう。

矢吹は1879年（明治12）2月、福島県信夫郡飯坂町に生れ、幼名を佐藤朝治といった。85年6歳の時、同県伊達郡桑折町の無能寺矢吹良慶に就き得度し、慶輝と改名。94年、「布施の行者」と称された颯田本真尼と無能寺で初めて出会う。1902年浄土宗高等学院正科を卒業し、さらに第一高等学校を経て東京帝国大学文科大学を卒業（恩賜銀時計）。卒業論文『阿弥陀仏の研究』は11年丙午出版社より刊行された。卒業後直ちに天台宗大学講師、翌年31歳で宗教大学教授に就任すると、13年米国ハーバード大学にて恩師姉崎正治を補佐するほか、翌年には北米教会制度、社会事業を視察、さらに15年から17年1月まで浄土宗留学生として、再びハーバード大学、次いでイギリス・フランス・スイス・スウェーデン・ロシア等で社会事業視察並びに西域発掘品調査に当たった。小論では扱えないが、矢吹は敦煌出土の仏典の研究で知られる世界的な宗教学者でもあったのである。

17年38歳の時、宗教大学社会事業研究室開設主任となる。18年4月東京府慈善協会理事、また同月社会事業研究室開設に伴い正式に主任を委嘱され、5月開室記念展覧会を開く。21年3月東京府社会事業事務嘱託、22年三輪学院（労働児童教育）創設、24年東京帝国大学助教授に就任。同年関東大震災後の東京府臨時調査連絡部長、中央社会事業協会改善部委員、25年東京市社会局長に就任（翌年7月辞任）し、東京市社会



矢吹慶輝

出典：『社会福祉古典叢書 6 渡辺海旭・矢吹慶輝・小沢一・高田慎吾 集』（1982年、鳳書院）

事業の基礎を築く。また同年には岩波書店から『三階教之研究』を上梓し、帝国学士院恩賜賞を授与されている。7月東京府社会事業協会評議員、26年1月東京市日雇労働者賃金評定委員会副委員長、34年5月社会事業調査委員（内閣）、文部省宗教教育協議会協議員、36年学生社会事業連盟初代会長、38年5月全日本方面委員連盟評議員、同7月中央社会事業委員（内閣）。39年6月狭心症にて逝去。行年60歳。

長谷川が宗教大学予科に入学した年（20歳）、矢吹は31歳で同大学の教授に迎えられている。したがって、すでに当時から矢吹の存在は十分承知していたはずだが、長谷川が本科へ進んだ翌年に矢吹は渡米し、上記の通り17年1月帰朝するまでの間二人の接点は見出し難い。長谷川が深い尊敬の念を抱いて帰朝後の矢吹の許を訪ねたのは、ほかでもない恩師・渡辺海旭の計らいである。療養生活から再起をかけて上京した長谷川が渡辺の配慮で『浄土教報』の記者として再ス

タートを切ったことは前にふれた。その初仕事ともいふべきものが、恩師の勧めによる欧米から帰朝間もない矢吹への徹底した取材活動であった。この新進の社会事業学徒に対して矢吹は最先端の欧米社会事業に関する新知識を惜しげもなく教示した。闘病生活のなかでも社会事業研究に余念のなかった長谷川もまた、その新情報を真摯にかつ意欲的に吸収していった。そのころの長谷川の心境を語っているのが下記の『浄土教報』（大正6年3月2日号）の記事である。

宗大にも来学年こそは社会事業科が新設されること、四大海水の如き法眼に世界のターニング・ポイントを映現し来った矢吹教授を有することは我が宗大の誇り浄土宗の誇りである。今の宗大今の浄土宗に斯の人を得たといふことは何等かの仏祖の黙示であらねばならぬ。既に渡辺教授を有し、今矢吹教授を加へ、而して岩井、松壽、加藤等それぞれ専攻の諸星を有する事は如何に宗門の幸福であるか。……今や矢吹教授によって^(マ)将来せられた斯業の珍籍名什は堆然山をなして宗大に於ける「社会事業研究室」の設備を因縁づけて居る。（「最近社会事業潮勢」『長谷川良信全集』2巻所収）

かくして二人の本格的な出会いは、その後まもなく、我が国の社会事業教育史に名を留める宗教大学社会事業研究室の開設に結実してゆくのである。本研究室は、上述のように17年欧米より帰国した矢吹が、直ちに当時の学長望月信亨、教授渡辺海旭と図って、宗教学徒の社会事業に関する知識・啓発を必要と認め開設準備を始めたものである。当時月例の研究会を催していた「仏教徒社会事業研究会」と呼応して学内に「社会事業研究室」が設けられたのは同年5月ということになる。その翌18年4月、正式に社会事業研究室が開設されると矢吹が主任に委嘱され、長谷川は理事に迎えられ矢吹を補佐することとなる。同年5月、矢吹が欧米において収集した各種文献・報告・年報等の資料を中心に、開室記念社会事業展覧会が開催され注目を集めた。

長谷川が理事に抜擢された理由の一つに、彼には、矢吹の帰朝に先立つ16年2月、早くも「社会事業に於ける人材養成の急務」を『浄土教報』に発表し、宗教大学に社会事業科を設置して、専門的な社会事業教育を開始するよう提言していることがあげられよう。その先見性と社会事業教育への強い関心は、同研究室における長谷川の多彩な活動にもうかがわれる。長谷川によれば、「学生中この方面に志望を有する者数名宛

を毎年研究生として費用を支給し、矢吹教授主として海外斯学につき、筆者は国内社会事業につき、これが指導に任じた。後大正十年に至り初めて社会事業講座を本科に開講することとなり、矢吹教授の『宗教学』、渡辺教授の『文書伝道』などに加えて筆者の『救貧事業』などの開講を見た」（『大正大学の社会事業教育』『全集』3巻所収）という。

ここで、よく知られた話ではあるが、「社会事業研究室」の名称をめぐって、矢吹と当時の東京府知事で『救済制度要義』等の著者で知られる井上友一とのやりとりの一端を紹介したい。矢吹の記した「大正大学社会事業研究室の回顧」（『浄土宗社会事業年報』昭和9年9月発行）によれば、ちょうど研究室開室に当り、知事の祝辞をお願いに行った時のことで、知事室に呼ばれて、「社会事業といふ言葉が日本では未だ一般化してゐない、中には社会主義と混ざる者もあるやふに思はれる。だから社会事業だけでは穏当でない」と言うことだったが、自分は今更ら名称を変更することは学校として困るという主旨を述べたところ、親切心から「それならば社会と事業との間に小さな文字で救済と言ふ二字を入れて来年あたりから社会救済事業研究室と名付けてはどうかと言はれた」との一幕があった。時代の先端を行く名誉ある「社会事業研究室」の名は、こうして矢吹の英断により決したのである。

研究室の開設はまた、長谷川のセツルメントの実践に途を拓くことにもなる。彼は18年10月宗教大学社会事業研究室実地調査部の名で、大学に隣接する西巢鴨の「二百軒長屋」と称されたスラムに移住し、学生と共にセツルメントを始めた。東大セツルメントより5年ほど早い。その翌年1月には、前号で紹介した「マハヤナ学園」を創設。この時にはそうそうたる学園顧問のなかに渡辺とともに矢吹もまた名を列ねている。長谷川は草創期の学園事業に忙殺されながらも、誕生まもない母校の社会事業教育・研究に尽力し、21年に宗教大学講師に就任。翌22年には海外留学へと旅立った。同年矢吹もまた渡欧しているが、その任務は英国博物館所蔵古写本調査、東大からヨーロッパの宗教運動調査、東京府から大戦後の社会事業調査、協調会からヨーロッパ労働者教育調査などである。矢吹が学界、官界等から宗教・社会事業・労働問題等の調査研究に関して、いかに期待されていたかが知られよう。

23年9月関東大震災の報に接し、長谷川は急遽、留学の予定を変更して帰国の途につくが、旅中に病に襲われ、その年の暮に帰朝。一方、矢吹はこの年に文学博士の学位を取得し、翌24年には東京帝国大学助教授

に就任した。同年留学から戻った長谷川は宗教大学教授に昇任し、併せて矢吹の後を受け継ぎ社会事業研究室主任を拝命した。とはいえ、矢吹は同研究室設立の大恩人であり、かつ同じ浄土宗に所属する宗門人同士として二人の交流は矢吹の死去に至るまで続くこととなる。

吉田久一によれば、矢吹社会事業を理解するには、仏教思想と近代化されたアメリカ社会事業が重要だとされ、アメリカ社会事業の成立期にいち早くその精髓を吸収し、日本社会事業の近代化に寄与したという。また矢吹は、近代社会事業の根本思想は「一般共同の福祉を進捗せしむる」ことにあるとし、国家的であると同時に民主的で、根本に人道主義があると述べる。そして現代社会観の基調を「連帯共同」に求め、社会事業の特性は「組織的」「科学的」「社会的」「人道的」にあるとし、慈善感化救済では、現代社会に応じられないとしている（『社会事業と思想問題』1920年6月）。このような「連帯共同観念」には、大正デモクラシー状況と、仏教の有機的報恩思想がその根底にあるという（『社会福祉と宗教の思想』勁草書房、2003）。吉田の指摘は、大乘仏教をベースとした「衆生恩報答」「感恩奉仕」「トゥギャザー・ウィズ・ヒム」を主唱した長谷川の思想とも響き合うものである。

矢吹の仏教思想で重要なのは、得度した無能寺が律院であって、戒律を重んじる生活が原点にある。その戒律が社会事業と結合するのは、吉田も言っているように江戸中期の念仏聖である開山無能の影響と、前掲の颯田本真尼との出会いである。もっともこの戒律的慈善は彼の内信に属することがらであって、思想的に重視しているのは縁起・無常・無我・報恩思想であろう。先にもふれたが、矢吹の得意な「連帯共同の観念」も縁起・無我説をもって説示されているし、これを社会的実践に結び付ける思想として着目したのが「報恩」である。

その報恩も「偏務的」になっただけでなく、あくまでも「相関的」のもので、社会共同の上に立った報恩でなければならない。つまり「共済共報」に立つべきことが主張される。いま一つ注目しておきたいのは、「連帯共同」と大乘仏教の利他主義との関係についてである。連帯共同の持ちつ持たれつが真実の姿であって、「自分の悟りは自分以外の人びとの浄化を要求する」。そこで大乘仏教は経でも宗旨でも利他を先としないものはない、と言っている。なお長谷川は、「矢吹先生と社会事業」（『正大社会事業研究室報』矢吹・谷山両教授追悼号）において、「矢吹先生後半生の解

学信仰、行持は此の意味に於て布施行を以て持戒行に代置されたものでなからうか」と、矢吹社会事業の原点ともいべきものに迫っている。

ところで、長谷川社会事業の代名詞ともいべき主著『社会事業とは何ぞや』が刊行されたのはマハヤナ学園創立の19年9月、満28歳のことである。斯界の先達、田子一民『社会事業』（22年）、生江孝之『社会事業綱要』（23年）、矢吹慶輝『社会事業概説』（26年、谷山恵林と共著）のいずれもが世に出る前の著作であって、「日本社会事業成立に対する予言的位置をもつ書物の一つ」（吉田久一）に数えられる。矢吹の前掲書が長谷川の編纂にかかる『社会政策大系』全10巻の第2巻に収められているのも因縁を感じさせる。

伝統仏教はどちらかといえば資本主義や社会問題についての理解が浅く、関心も薄いとみられてきたなかで、昭和恐慌と称された未曾有の経済不況が襲来する30年ごろから、寺院の社会的役割が教団内外から厳しく問われるようになる。これに追い打ちをかけたのが、31・32年に高まる反宗教運動であった。仏教界の対応の一例を二人が所属する浄土宗にみれば、31年5月開催の高等講習会はメイン・テーマに社会思想や社会問題を掲げ、矢吹と長谷川を講師に迎えている。『浄土教報』によると、「今年の高等講習会は、全く宗内の社会思想及び反宗教運動にたいする対策が中心問題になった観がある」（31年6月6日号）と伝えている。内容に立ち入る紙数はないが、こうした現下の社会経済的な諸課題への対応に関して、宗門が、いかに矢吹や長谷川の学識と行動に期待していたかが察せられよう（この時の長谷川の講義内容は「社会問題と寺院の使命」と題して『全集』第2巻所収）。

これまで、長谷川とその社会事業の恩師・渡辺海旭、矢吹慶輝を紹介してきたが、この三人に対する吉田久一の歴史的評価は参考になる。吉田は、三人を「仏教社会事業成立の一里塚と位置づけることに余り異論はないと思う」と述べたうえで、「一 社会事業思想への出立—渡辺海旭」、「二 社会事業の思想の形成—矢吹慶輝」、「三 社会事業思想の成立—長谷川良信」と三人それぞれの位置づけを行なっている。しかも、仏教社会事業の近代化コースで、渡辺—矢吹—長谷川はともに、「衆生恩」を社会連带的に解釈して近代化をはかった。それは、プロテスタントが「禁欲」のもとに、「自立」を主張したことと対比的であった、と述べている（吉田前掲書）。

平成30年度淑徳大学アーカイブズ特別展

ちから
「夢の力 —歴史・仏教から福祉へ—」 開催

本年度の淑徳大学アーカイブズ特別展は、「夢」がテーマです。

夢は眠ったときに誰でも見ることができるものですが、歴史を振り返ると、夢についての考え方が現在とは違うことがわかります。古来、夢は人びとが神や仏などの超越的な存在と交流する回路のひとつと考えられてきました。見た夢を手がかりに将来を決めることが一般的に行われていました。夢を見れば、それをまわりの人たちに語るという習慣もありました。夢の信仰は、当時の社会から受け入れられて、多くの庶民たちにとっても生活のなかで大事な位置を占めていたことがわかります。

また、法然をはじめ鎌倉仏教の祖師らが夢告によって進むべき道を示唆されるなど、夢から教わるのが大きかったことが知られています。夢が自分の内面を表すということがわかってきた歴史はまだ新しく、一世紀くらいしかたっておりません。現在、夢といえは将来への展望を表す言葉として使われることが多くなりました。

夢に接近することは、未来を紡ぐ可能性に満ちたものであり、わたくしたちの日常生活をも豊かにしてくれる一つのツールでもあります。語ることでしか、その存在を証明できないのも夢の特徴です。夢の歴史や夢と仏教とのつながりなどから、過去を見つめることによって、未来へ進むための手がかりとしていただきたいと思います。

ぜひ展示室へお出かけください。



会 期	I 期 2018年10月27日（土）～11月30日（金） II 期 2019年4月2日（火）～5月10日（金） 臨時開室することがあります。HPをご覧ください。
開室時間	10：00～16：00
会 場	千葉キャンパス 淑水記念館（1号館）3階 「淑徳大学アーカイブズ特別展示室」
問合せ先	淑徳大学アーカイブズ TEL 043-265-7526 e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp

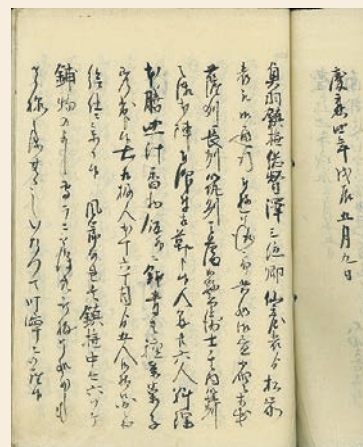
「淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会」のご案内

— 参加者を募集しています —

淑徳大学アーカイブズでは、地域の方々との交流を深めるため、「古文書に親しむ会」を開催しています。内容は、当アーカイブズが所蔵している史料をはじめとして、江戸時代から近代にいたる史料を幅広く読みながら、当時の社会や地域について学んでいこうというものです。

会は毎月第2・第4金曜日の午前10時からお昼頃まで、淑水記念館で開催しています。初心者の方も大歓迎です。くずし字が読めるようになりたい方や昔のことに興味のある方はどなたでも参加できます。ぜひ当アーカイブズまでご連絡下さい。皆さんで楽しく史料を読んでいければと思います。

〈問い合わせ・申し込み〉 淑徳大学アーカイブズ
TEL 043 (265) 7526 〈直通〉



淑徳大学アーカイブズ日誌 (2018年6月~10月)

- 6月 1日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会平成30年度総会・記念講演会参加（於武蔵野スینگホール）。〈桜井〉
- 6月 2日 千葉・関東地域社会福祉史研究会2018年度第1回運営委員会出席（於東京キャンパス）。〈桜井〉
- 6月 4日 マハヤナ学園創立100周年記念誌について業者と打ち合わせ（於マハヤナ学園撫子園）。〈桜井〉
- 6月 6日 福田会育児院史研究会資料整理参加（於広尾フレンズ）。〈桜井〉
- 6月 8日 市原特別支援学校つまい風の丘分校より産業実習生1名受け入れ。
- 6月 8日 第137回淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会開催。
- 6月11日 マハヤナ学園創立100周年記念誌執筆のため資料閲覧（於マハヤナ学園撫子園）。〈桜井〉
- 6月15日 看護栄養学部田代和子教授他教員5名と2年生104名学祖展・アーカイブズ特別展見学。
- 6月15日 総合福祉学部山下興一郎准教授とゼミ生6名アーカイブズ特別展・吉田久一展見学。
- 6月15日 広島文教女子大学蛭江紀雄教授アーカイブズ特別展・吉田久一展見学。
- 6月16日 平成30年度第1回自校教育推進委員会出席（於東京キャンパス）。〈桜井〉
- 6月16日 総合福祉学部白井伊津子教授の「地域社会の文化の発展に寄与するためのモデル開発」プロジェクトの打ち合わせ（於東京キャンパス）。〈桜井・大高〉
- 6月18日 マハヤナ学園創立100周年記念誌について業者と打ち合わせ（於マハヤナ学園撫子園）。〈桜井〉
- 6月22日 第138回淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会開催。

6月22日	2018年度第3回福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。〈桜井〉
6月23日	学園の文書管理について本部田島豊部長と打ち合わせ。（於千葉キャンパス）。〈桜井・大寫〉
6月23日	日本歴史学協会第23回史料保存利用問題シンポジウム参加（於駒澤大学駒沢キャンパス）。〈桜井・大寫〉
7月5日	埼玉キャンパス塩成博美事務局長と文書保存について打ち合わせ（於埼玉キャンパス）。〈桜井〉
7月11日	総合福祉学部木下和彦講師と学生17名学祖展・アーカイブズ特別展見学。
7月13日	第139回淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会開催。
7月14日	千葉・関東地域社会福祉史研究会第13回研究総会出席（於東京キャンパス）。〈桜井・大寫〉
7月16日	本年度特別展準備のため大巖寺で写真撮影。〈桜井・大寫〉
7月18日	総合福祉学部江津和也准教授と学生12名アーカイブズ特別展見学。
7月19日	本年度特別展準備のため銚子市圓福寺の資料調査・写真撮影。〈桜井・大寫〉
7月20日	東京キャンパスより学生の活動関係資料寄贈。
7月21日	東京大学経済学部資料室シンポジウム「教育・研究資源としてのデジタルアーカイブ：その管理・活用・保存」参加。〈桜井〉
7月23日	本年度特別展準備のため國學院大學図書館調査。お茶の水女子大学歴史資料館展示室視察。〈大寫〉
7月24日	学園本部より輪島聞声の写真および校舎のデザイン画など寄贈。
7月26日	平成30年度第2回自校教育推進委員会出席（テレビ会議）。〈桜井〉
7月26日	本年度特別展準備のため千葉県文書館調査・写真撮影。〈大寫〉
7月27日	マハヤナ学創立100周年記念誌編集委員会出席（於マハヤナ学園）。〈桜井〉
7月27日	第140回淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会開催。
7月27日	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会第296回定例研究会参加（於神奈川県立公文書館議）。〈大寫〉
7月27日	2018年度第4回福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。〈大寫〉
8月1日	本年度特別展準備のため高山寺（京都市）にて写真撮影。京都大学文書館展示見学、龍谷ミュージアム常設展・特別展見学。〈大寫〉
8月2日	本年度特別展準備のため山口県立美術館特別展見学。山口県文書館収蔵庫視察、同館調査。〈大寫〉
8月2日	第110回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会参加（於東京藝術大学）。〈桜井〉
8月3日	本年度特別展準備のため山口学芸大学名島潤慈教授訪問。山口県文書館調査・写真撮影。〈大寫〉
8月3日	千葉キャンパス15号館地下2階にある廃棄文書の選別作業。〈桜井〉
8月4日	本年度特別展準備のため山口県文書館調査・写真撮影。山口県立図書館調査。〈大寫〉
8月7日	福田会育児院史研究会資料整理（於福田会広尾フレンズ）。〈桜井〉
8月10日	千葉キャンパス15号館地下2階から8階に移動した廃棄文書の選別作業。〈大寫〉
8月11日	千葉大学引野亨輔准教授と学生10名アーカイブズ倉庫見学。
8月16日	千葉キャンパス15号館地下2階から8階に移動した廃棄文書の選別作業。〈桜井・大寫〉
8月21日・22日	福田会育児院資料整理（於福田会広尾フレンズ）。〈桜井〉
8月23日	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会第297回定例会参加（於国立公文書館）。〈桜井〉
8月27日	平成30年度大巖寺特別研修参加者30名学祖展・吉田久一展見学。
8月30日	本年度特別展準備のため石山寺（滋賀県大津市）調査・写真撮影。〈大寫〉

9月 8日・9日	日本社会福祉学会第66回秋季大会参加（於金城学院大学）。〈桜井〉
9月 8日	高瀬真卿の曾孫伊藤祚子氏宅調査。〈桜井〉
9月10日	福田会育児院史研究会の調査でポーランド孤児関係資料撮影（於日本赤十字豊田看護大学）。〈桜井〉
9月13日	平成30年度第3回自校教育推進委員会出席（テレビ会議）。〈桜井〉
9月14日	第141回淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会開催。
9月19日	福田会育児院資料整理（於福田会広尾フレンズ）。〈桜井〉
9月27日	第176回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会・研究会出席（於立教大学池袋キャンパス）。〈桜井・大寫〉
10月 1日	平成30年度第1回淑徳大学アーカイブズ運営委員会開催（於大乘淑徳学園本部理事長室）。〈桜井・大寫〉
10月 5日	2018年度第6回福田会育児院史研究会出席（於福田会広尾フレンズ）。〈桜井〉
10月 6日	マハヤナ学園創立100周年記念誌編集委員会出席（於マハヤナ学園撫子園）。〈桜井〉
10月10日～12日	全国大学史資料協議会2018年度総会・全国研究会参加（於九州大学）。〈桜井・大寫〉
10月12日	第142回淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会開催。
10月15日	本年度特別展準備のため銚子市圓福寺から資料借用。〈桜井〉
10月17日～19日	市原特別支援学校つるまい風の丘分校より産業現場実習生3名受け入れ。
10月17日	本年度特別展準備のため千葉県文書館より資料借用。〈大寫〉
10月21日	埼玉キャンパス淑徳祭にて資料収集。〈桜井〉
10月27日	平成30年度淑徳大学アーカイブズ特別展「夢の力（ちから）—歴史・仏教から福祉へ—」I期開催。

淑徳大学アーカイブズでは、 大学及び大乘淑徳学園に関する資料を広く収集しています。

- ① 大学及び学園が発行した新聞・雑誌・広報誌・年報・報告書等。
- ② 学生時代の写真・講義ノート・教科書・手帳・日記・記念品・記章・各種書類等。
- ③ 学生時代に使用していたもの。
- ④ 大学及び学園のサークルや研究会の活動を示すもの。

上記以外の物でも結構ですので、お気づきのものがあればお気軽にご連絡下さい。

また、大学及び学園の各部署や学部学科、機関で保存期間の満了した文書、あるいは廃棄の対象となる文書が発生した場合は、大学アーカイブズまでご一報下さい。



淑徳大学
アーカイブズ・ニュース 第18号
NEWSLETTER of
SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

発行日：2019年（平成31）1月7日

編集・発行：淑徳大学アーカイブズ

〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200

TEL 043-265-7526（直通）

e-mail : archives@soc.shukutoku.ac.jp